



大分県議会議員 2024年 春号  
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

# 原田たかし 会報

教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、  
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と  
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

## 佐藤知事「人口減少対策、産業の振興、未来へつなげる投資」

### ～2024年 大分県議会第1回定例会～

2024年第1回定例会が2月26日(月)から3月27日(水)にかけて開催されました。

佐藤樹一郎知事が就任後初めて組んだ当初予算案は総額6,898億800万円。新型コロナウイルス対策事業が大幅に減ったことで11年ぶりに前年度を下回りました。

県税収入は1,375億円と過去最高を見込んでおり、佐藤知事は会見で「誰もが安心して元気で活躍できる県づくり、未来に向けて発展するための予算をバランスよく編成

できた。財政運営の健全性は維持する。」と述べています。

会中には当初予算案を集中審議する予算特別委員会も行われ、閉会日に全て可決されました。



知事による予算説明会の様子

【特徴的な新規事業を2・3面に掲載】

## 当初予算からみた佐藤 COLOR

昨年4月の統一地方選挙以降、多くの方々から「佐藤樹一郎知事はどう？」と尋ねられます。20年ぶりの交代となった新知事の県政運営が気になるのだと思います。

私はその度に「人柄はとても良い方ですが、県知事としての方向性はまだよくわかりません。3月の2024年第1回定例会での当初予算、そして9月の第3回定例会で示される新たな長期総合計画ではっきりしてくると思います。」と答えていました。

今回、佐藤知事が初めて取り組んだ当初予算を見ると、基本的には広瀬前知事の「安心・活力・発展」路線を踏襲していると思います。とはいえ、新たな取り組みとして交通政策局を新設しての広域公共交通網の整備検討、脱炭素化社会の推進、子ども・子育て支援、事業者の人材確保支援など「未来へつなげる投資」をこれまで以上に打ち出していると感じます。

私は広瀬前知事の取り組んできた構想について、この交代を機に大胆に検討をしていくべきだと思っています。

例えば、航空機を利用した小型衛星の水平型打ち上げをメインとする大分空港の宇

宙港構想。その基幹企業であったヴァージン・オービット社は経営破綻しました。県は新たな提携企業を探していくの方針ですが、私は国際便（現在、韓国ソウル便のみ）のさらなる誘致など観光の起爆剤となる施策に転換するべきだと考えます。

また、現在、九州最下位の産出額となっている農業。県はこれまでも大分県の顔となる園芸品目の育成を図る生産拡大計画を進め、まだ県内にはない100億円規模の園芸の創出に取り組んでいます。しかし、実現のためには平松県政での「一村一品運動」のときのような大きなうねりが必要だと思います。

そして、人口減少問題。広瀬県政では、大分キャンオンやダイハツ大分中津工場規模拡大など企業誘致での雇用創出が対策の柱でした。この問題は、大分県の最重要課題です。

様々な課題に対して、他県にはない独自の政策、それが佐藤カラーになるのではないかと考えています。そういう意味では佐藤カラーはまだまだこれからなのかもしれません。

### 折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。  
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。





2024年 第1回

# 定例会報告

## 地域課題にどのように取り組んでいくのか…

今回の当初予算では、県下に6カ所ある振興局が主体的に取り組んでいた**地域課題対応枠事業**の新規事業が無くなりました。

この事業枠はその名の通り地域課題に即応し、併せて若手職員の政策形成能力の向上を目的とし12年前に創設されました。これまで、1事業につき400～600万円程度、3年程度の実施期間で予算をつけていました。

私は、振興局が地域の課題をどのようにとらえているのかわかりましたし、振興局のモチベーションにも繋がると考えていました。

会期中の予算特別委員会で、振興局の地域課題対応枠事業の新規事業が計上されていない理由と、地域課題に対してどのように取り組んでいくつもりなのか質問しました。

管轄する政策企画課から「補助率など本庁事業との整合性の問題、加えて振興局での事業の検討から本庁での協議までの期間が短く若手職員で対応することが困難ということから地域課題対応枠事業を廃止することとした。これからは、地域の課題解決に向け**地域活力づくり総合補助金（5億円）**を活用し、振興局も直接執行できるようにしたい。なお、既存事業については計画の終期まで執行する。」との答弁でした。

若手職員の政策形成能力の向上については、「事業構築の経験を有する中堅職員による研修を開催するとともに、意欲を持った若手職員等が検討したアイデアを事業化に繋げるため**事業提案制度**を活用していきたい。」とのことでした。



予算特別委員会の様子  
【庁内放送より】



## 2024年度の 新規事業を紹介

分野別に特徴的な**新規事業**を紹介します。なお、**赤字**は意欲的な新規・重点事業を盛り込んだ特別枠「**新おおいた創造挑戦枠事業**」（133事業・28億4,400万円）です。**黒字**は**既存事業**ですが、一部新規事業が含まれています。（ ）は**予算額**

### 【医療・感染症対策】

**新興感染症等対策推進事業（8,258万円）**では、感染症発生の予防及びまん延防止の施策を講じるため医療提供体制や検査体制を整備するとともに、人材確保・育成を行います。

今後発生が懸念される新興感染症等に対応するため**衛生環境研究センター機能強化事業（3,246万円）**では、衛生環境研究センターの検査体制を強化します。

**こども医療費助成事業（13億510万円）**では、子育て家庭の経済的負担を軽減するため医療費の助成対象を高校生まで拡大します。

医療費の助成対象拡大



### 【教育】



**遠隔教育システム構築事業（1億85万円）**では、多様で質の高い高校教育を提供するため、専門科目を実施する学校から地域の学校に双方向の遠隔授業を配信する遠隔教育システムの整備を行います。

古い人間なのかもしれませんが、遠隔教育と聞いて、ちょっと違和感を覚える原田です…。

教職員の部活動指導の負担軽減と経験者による指導の充実を図る**学校部活動改革サポート事業（7,489万円）**は、部活動指導員145人（公立中学校129人、県立高校16人）を配置。また、総合型地域スポーツクラブ等と連携し、部活動の地域移行等に取り組みます。

保護者の経済的負担を軽減するため**県立学校給食費無償化事業（3,632万円）**で、給食を実施する県立学校（特別支援学校、定時制高校、盲学校、聾学校及び豊府中学校）の給食費を無償化します。全ての市町村立学校や私立学校でも実施してほしいですね。

私のHPにも議会活動・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

大分県議会議員 原田たかし

検索

<https://harada-oitakengi.com/>





## 【農業】

**大規模園芸団地整備促進事業 (5,642万円)** では、県市町や関係団体が一体となって大規模園芸団地の整備を進めるため、モデル団地の整備など計画的な団地化に取り組みます。



「おおいた和牛」の生産基盤強化とブランド力向上を図るため**おおいた和牛産地強化対策事業 (1,943万円)** は、全国和牛能力共進会での日本一獲得に向けた

推進体制を構築するとともに、優れた出品牛造成の取り組みを支援。  
一番人気の種雄牛・加代白清号【農林水産部畜産技術室提供】放牧経営の新規参入や規模拡大に取り組む事業者に対し、国際情勢の影響を受けやすい畜産飼料対策として**自給飼料基盤活用推進事業 (2,103万円)** を進めます。

## 【防災・土砂災害対策】

河川水位上昇時に住民の早期避難を促すため**洪水時危機管理体制強化事業 (2,900万円)** では、「注意・避難・危険」と記した水位表示マークの設置と監視カメラで水位の上昇を視覚化します。



**県土強靱化関連公共事業 (268億9,530万円)**、**道路改良事業 (150億1,188万円)**、**災害復旧事業 (108億8,432万円)** などの公共事業も計上されています。

## 【環境・資源・エネルギー】

**温泉資源適正利用推進事業 (2,242万円)** では、温泉資源保護を図るため、新規掘削を規制する離隔距離（泉源の間隔）等の見直しに向けた温泉資源量調査を実施します。



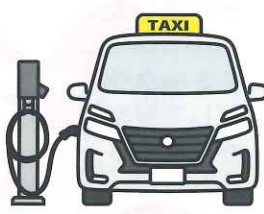
実験等を支援します。

水素の製造から運搬、利活用に関わるモデル構築に向けた調査の実施、地熱利用の設備導入に対して助成する**エネルギー関連産業成長促進事業 (2億4,859万円)** を予算化。

私が所属しています県民クラブもHPを開設していますので御覧ください。  
セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

## 【交通】

2024年問題に対応するため**自動車運送事業者乗務員確保対策事業 (5,247万円)** では、地域公共交通の運行や物流を担うトラック輸送の維持対策として、バス、タクシー、トラックの自動車運送事業者等が行う乗務員確保の取り組みを支援します。



**公共交通EV車両導入支援事業 (9,232万円)** では、燃料費高騰への対策や2050年カーボンニュートラルの実現に向け、公共交通事業者が行うEV車両導入等の取り組み

を支援します。

東九州新幹線や豊予海峡ルート（四国新幹線等）の実現に向け**東九州新幹線等広域交通推進事業 (2,335万円)** では、新幹線の整備計画路線への格上げなどを図るため、国への要望活動や九州・四国の関係機関と連携したシンポジウムを開催します。

## 【働き方改革・人材確保・DX<sup>注1</sup>】

多様な人材が意欲・能力を十分に発揮できる魅力ある職場環境づくりを推進するため**働き方改革推進・支援事業 (2,159万円)** では、企業の働き方改革を後押し、男性育休取得の促進に取り組む中小企業を支援します。



中小企業の人材確保を推進するため**中小企業採用力強化事業 (769万円)** では、SNS等を活用した企業の魅力や就職情報を発信する手法を学ぶためのセミナーを開催し、県の媒体等を活用した情報発信を支援します。



**中小企業等DX促進事業 (1,981万円)** は、中小企業のデータ経営の普及に向けた支援人材を育成する事業です。

【注1】DX（デジタルトランスフォーメーション）とは…インターネットでの買い物などのように、進化したIT技術を利用し、生活や仕事の質や効率性を高めること。

### 原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いします。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民ひろば」をお送りいたします。御連絡をお待ちしております。

原田たかし後援会 ☎0977(25)0011

〒874-0838 別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所内

大分県議会 県民クラブ

🔍 検索



<https://kenmin-club.com/>





## 災害時の避難としての可能性を探る

# 車中泊講習会に参加しました

昨年12月の第4回定例会の一般質問で、私は災害時の車中泊避難を取り上げました。

車中泊避難について、国はエコノミークラス症候群が発生する危険性があるとして推奨していません。一方、「避難所は人が多く落ち着かない」、「子どもや高齢者、ペット等と一緒に避難所では気を遣う」と車中泊避難を選択される方もいます。

エコノミークラス症候群を予防し、かつ、快適に車中泊避難できる方法の研究や実験を検討しても良いのではないかと提案しました。

【原田たかし議会報告「2024年冬号」より抜粋】

私の会報を読まれた方から、「車中泊の講習会を開催しますので、良かったら参加しませんか？車中泊避難の参考になると思いますよ。」とのお願いがあり参加してきました。

お誘いの連絡をくれたのは、大分市で美術教室を運営されている藤原了児さん。



大分市カヌー協会の事務局長としてカヌー講習会の運営もされています。併せて車中泊のキャンプも楽しまれており、今回の講習会を企画されたそうです。



1月14日(日)に会場へ。さっそく車中泊に必要なグッズを教えてくださいました。一番大事な物は、車に適したサイズのマットレスや寝具、それに電気毛布などの家庭用電化製品を使うための電源だそうです。

ACコンセントが付いている電気自動車やハイブリットカーもありますが、車中泊の電源は、充電式のポータブル電源、もしくは車のバッテリーから家庭用ACコンセントに変換するカーインバーターとなります。カーインバーターはシガーソケットに接続するタイプが簡単で便利です。

電源があれば、携帯の充電もできますし、コンパクトなテレビやラジオで情報を得ることもできます。



私の充電式のポータブル電源(左)とカーインバーター(右)

また、簡易トイレや防犯のためのカーテンや目隠しの用意、さらに結露を防ぐため車の窓はほんの少し開けておくといいと教えていただきました。



なお、車中泊の際は、エコノミークラス症候群対策として、軽い体操やストレッチ運動とこまめな水分補給を忘れてはいけません。

また、エンジンのかけっぱなしによる一酸化炭素中毒にも気をつけなければなりません。積雪の多い地域では、雪によってマフラーがふさがれる危険性もあります。

車中泊に関するガイドブックが出版社や自動車メーカーから出ていますから、それらも参考になるかと思えます。

そうした説明を聞いてる中、参加されていた方から「発達障がいなど障がいのある子どもの場合、学校や公民館などの避難所では不安を抱えたり迷惑をかけそうなため、災害時は車中泊避難を考えざるを得ません。ぜひ、県でも車中泊避難の支援にも取り組んでほしいです。」という話をお聞きしました。

元旦に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起きました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

この地震では、多くの方々が車中泊避難をされている様子が報道されました。現在、国や県は車中泊避難を推奨していませんが、車中泊避難をされる方々も含め誰もが安心して避難できる環境整備が必要だと感じました。

今回、車中泊についてたくさん教えてくれた藤原了児さん、徳永泰夫さん、中元洋子さん、ありがとうございました！



後日、原田はポータブル電源やマットレス、電気毛布などをそろえ、家の駐車場で車中泊を体験。車の中はこのような感じになりました。

